

## 自己評価報告書

平成23年 4月25日現在

機関番号：10101

研究種目：新学術領域研究

研究期間：2008～2012

課題番号：20101007

研究課題名（和文） 地域大国の文化的求心力と遠心力

研究課題名（英文） The Centripetal and Centrifugal Forces of Culture

研究代表者

望月 哲男 (MOCHIZUKI TETSUO)

北海道大学・スラブ研究センター・教授

研究者番号：90166330

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：ユーラシア 地域大国 文化統合 求心力 自己イメージ

## 1. 研究計画の概要

文芸の諸ジャンルにおけるアジアのイメージの比較、自己と他者の表象比較、グローバル化と地域文化の関連を中心テーマとして、以下の活動を行った。

- (1) 現地調査：ユーラシアの文化的・民族的混交地域への現地調査。
- (2) 海外研究者との研究連携：インド文化社会学の専門家を招聘し、インド文化の変容に関する共同研究を行う。
- (3) プロジェクト研究員の雇用：中国文化学専門の若手研究者をプロジェクト研究員に採用し、ユーラシア比較文化学の幅を広げる。
- (4) 国際シンポジウムの開催：ユーラシア地域大国におけるアジアのイメージをテーマとした国際シンポジウムを行う。
- (5) 海外における研究発表：国際的なシンポジウムなどでユーラシアの比較文化に関する研究発表を行う。

## 2. 研究の進捗状況

- (1) 現地調査：南インド（井上、杉本）、ロシア（望月、高橋沙奈美（研究協力者））、中国西部（武田）の調査を行い、さらに現地の研究施設・専門家の協力で、情報収集と意見交換を行った。
- (2) 海外研究者との連携：インド社会文化学の専門家シュリニヴァス教授（文化社会研究センター：バンガロール）を大東文化大学に招聘し、井上貴子研究分担者との協力で、インド文化の変容とユーラシア比較文化に関する共同研究を行った。
- (3) プロジェクト研究員の雇用：中国思想研究の専門家住家正芳氏を雇用、東京大学と北海道大学にて村田雄二郎教授・武田雅哉教授との連携で、中国思想と日本・アジア諸国

との関連に関する共同研究を行った。

(4) 国際シンポジウムの開催：2010年7月8日9日に北海道大学で、ユーラシア地域大国におけるアジアのイメージをテーマとした国際シンポジウムを開催。論点は中国のサブカルチャー、アジアの表象、音楽における東と西、宗教とイデオロギー、越境する作家たち、場所の精神。総報告数21、外国人パネリスト14名。前後には、東京と京都で関連の催しを行開催。成果集は近刊。

(5) 国際学会での研究発表：国際中欧東欧研究協議会大会（ストックホルム、2010年7月）、国際トルストイ・シンポジウム（高麗大学（韓国）、2010年10月）、Religion and Media: Transcultural Perspectiveシンポジウム（フリードリヒ・アレクサンダー大学（ドイツ）、2010年11月）などの国際学会で、ユーラシア地域大国の比較文化に関連した発表を行った。

## 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

研究活動については、おおむね予定通り進行し、内容的にも充実した成果が得られた。国際的な研究者や研究拠点にも、本研究の意義が評価され、インドの文化社会研究センターやドイツのフリードリヒ・アレクサンダー大学など、連携を希望する組織も現れた。ただし、複数の方向に深まっていく研究を一つの目的地に収れんさせるための理論的な工夫においては不十分な点があるため、今後はその点の改善を試みたい。

## 4. 今後の研究の推進方策

(1) この研究によって生まれてきた国際的な

ユーラシア文化研究者のネットワークを生かし、海外における国際シンポジウムの開催や、国際学会におけるパネル組織などを積極的にを行い、研究成果の国際化に努める。

(2) 若手研究者を協力者として組織した国内での大規模な研究会、討論会を組織する。研究者だけでなく、創作者や思想家なども組織した、発展的な研究展開を目指す。

(3) 研究成果を一つのユーラシア比較文化研究に収れんさせるための、理論的枠組の深化を目指す。また震災など不測の非日常的な状況下での比較文化研究のあり方や意味についても特別な検討を深める。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計41件)

- ① 杉本良男、比較による真理の追求—マックス・ミュラーとマダム・ブラヴァツキー、出口顯・三尾稔(編)『人類学的比較再考』(国立民族学博物館調査報告 90)、173-226、2010年、査読有
- ② 中村唯史、19世紀末—20世紀初のロシア神秘主義と「東洋」の表象、比較地域大国論・第6班「文化」研究成果・活動報告 ([http://src-home.slav.hokudai.ac.jp/rp/group\\_06/achievements/files/20091220\\_nakamura.pdf](http://src-home.slav.hokudai.ac.jp/rp/group_06/achievements/files/20091220_nakamura.pdf))、2010年、査読無
- ③ Tetsuo Mochizuki、The Shadow of Gogol in Contemporary Russian Literature、Гоголь и современность (Seoul: Korea University Press) (In Korean)、44-72、2009年、査読無
- ④ 武田雅哉、「雷鋒おじさんに学ぼう！」の図像学、『革命の実践と表象 中国の社会変化と再構築』(韓敏編、風響社)、131-154、2009年、査読無

[学会発表] (計30件)

- ① 村田雄二郎、中国ナショナリズムにとってのモンゴル、第3回ウランバートル国際シンポジウム「日本・モンゴルの過去と現在——20世紀を中心に」、ウランバートル大学(モンゴル、ウランバートル)、2010年9月9日

[図書] (計8件)

- ① 井上貴子編著、勁草書房、アジアのポピュラー音楽：グローバルとローカルの相克、2010年、259頁

[その他]

ホームページ

<http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/rp/inde>